

# 株式会社エコ計画

## 定時モニタリング報告書

作成日 令和6年10月9日

作成者 アミタ株式会社

木村 直貴

フォレストック認定番号 0051

フォレストック認定日 令和4年11月1日(第1年度)

定時モニタリング日 令和5年11月1日(第2年度)

定時モニタリング日 令和6年11月1日(第3年度)

## 【モニタリング実施概要】

### 1 対象森林の概要

令和4年11月「森林CO<sub>2</sub>吸収・生物多様性等調査報告書」記載のとおり

### 2 評価基準

「森づくりにおける森林吸収源・生物多様性等評価基準」令和4年10月1日改訂版

### 3 調査日程

(1) 現地調査日

-

(2) モニタリング担当者名簿

氏名	所属	役職
木村 直貴	アマタ株式会社	

(3) モニタリング報告書作成責任者氏名

氏名	所属	役職
木村 直貴	アマタ株式会社	

## 1. フォレストック認定の基礎事情に関する特記事項

- ・対象森林の地権関係の変動:なし
- ・対象森林の境界紛争の有無:なし
- ・森林認証及び森林経営計画の継続・更新・取消等の状況:  
森林認証は取得していない。  
森林経営計画継続中。

所有者名称	対象森林所在地	面積
株式会社エコ計画 (施業管理者:株式会社エコ計画)	群馬県高崎市倉渕町	804.41 ha
株式会社エコ計画 (施業管理者:森林整備センター)	群馬県高崎市倉渕町	143.91 ha
面積合計		948.32 ha

- ・対象森林の面積の変動:なし

## 2. 森林の管理・経営面に関するモニタリング

- (1) 経営主体、経営組織、経営目的変更等の経営管理体制の変更に関する特記事項:

なし

- (2) (1)の他、「森林CO<sub>2</sub>吸収・生物多様性等調査報告書」作成時以降に発生した森林の管理・経営面の認定基準充足に著しい影響を及ぼすおそれ<sup>(※1)</sup>のある事情:

なし

- (3) フォレストック認定基準の充足に関する記載:

認定調査時と比較し、森林の管理・経営面に関して大きな変化は認められず、管理・経営面の評価は調査報告書と同水準であると判断する。これによりフォレストック認定基準である森林の管理・経営面の評価点数50点以上を維持している。

- (4) 大きな変化が明らかな<sup>(※2)</sup>評価項目については、その概要について記載:

大きな変化はない。

---

(※1) 「認定基準充足に著しい影響を及ぼすおそれ」とは、フォレストック認定基準である50点を下回るおそれをいう。

(※2) 「大きな変化」とは、フォレストック認定基準の充足とは関係なく、評価を大きく見直す必要がある場合を指す。

### 3. 生物多様性等の評価に関するモニタリング

(1)「森林吸収源・生物多様性保全等に関する調査報告書」作成以後に発生した森林の生物多様性の認定基準充足に著しい影響を与えるおそれ<sup>(※1)</sup>のある事情：

なし

(2)フォレストック認定基準の充足に関する記載：

認定調査時と比較し、周辺環境及び施業方法等に関して大きな変化は認められず、生物多様性の評価は調査報告書と同水準であると判断する。これによりフォレストック認定基準である生物多様性の評価点数50点以上を維持している。

(3)大きな評価の増減が明らかな<sup>(※2)</sup>評価項目については、その概要について記載：

大きな評価の増減はない。

---

(※1)「認定基準充足に著しい影響を与えるおそれ」とは、フォレストック認定基準である50点を下回るおそれをいう。

(※2)「大きな評価の増減」とは、フォレストック認定基準の充足とは関係なく、評価を大きく見直す必要がある場合を指す。

#### 4. CO<sub>2</sub>吸収量の確定・算定

##### (1) 施業に関する数値の集計・整理

##### ① 主伐量・主伐予定量に関する数値の集計・整理

樹種	A. 当該年度主伐予定量 (対象期間:令和5年11月1日～令和6年10月31日) (※1)	B. 主伐実績量		C. B-A	翌年度主伐予定量 (令和6年11月1日～令和7年10月31日) (※5)
		申告済主伐実績量 (令和5年11月1日～令和6年7月31日) (※2)	みなし主伐実績量 (令和6年8月1日～令和6年10月31日) (※3) (※4)		
スギ	0 ha	0 ha	2 ha	2 ha	2 ha

詳細は下記(3)、(4)参照

(※1) 「当該年度主伐予定量」には、認定取得者から提出された「主伐予定量申告書」に記載されている主伐予定量を記載した。

(※2) 「申告済主伐実績量」には、当該年度の2度の6カ月報告(「施業実績報告書」)の数値を記載した。

(※3) 「みなし主伐実績量」とは、当該年度において2度目に提出された施業実績報告書に記載された、施業対象期間満了日の翌日から翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)の前日までに認定取得者が見込んでいる主伐量のことをいう。上記表のみなし主伐実績量の欄には、定時モニタリングの際に、認定取得者が当社のモニタリング調査担当者及びフォレストストック協会に提出した「みなし実績量申告書」に記載された数値を記載した。

(※4) 認定取得者は、翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)から2週間以内に、「施業実績報告書(みなし期間)」を当社及びフォレストストック協会に提出する。当社は、認定取得者から提出された「施業実績報告書(みなし期間)」に記載された申告実績量(以下、「確定申告実績量」という。)が事実と異なるおそれがあるか否かについて、定時モニタリング日の属する月の翌月末までに、必要に応じ認定取得者からの聞き取り又は認定取得者に帳票類(森林経営計画、伐採届・伐採許可・造林届出及び販売関係帳票等の写し等)の提出を求める等の手段により調査確認を行い、確定申告実績量の記載内容が事実と異なるおそれがあると思料する場合には、定時モニタリング日の属する月の翌月末までにその旨をフォレストストック協会に報告する。('みなし実績量確認手続')

(※5) 「翌年度主伐予定量」は、認定取得者が当社及びフォレストストック協会に対し、定時モニタリング日(翌年度の当初日)から2か月前までに提出した主伐予定量申告書に記載された数値を記載した。

② 自然災害等による被害(CO<sub>2</sub>吸収量の減算要因)

なし

③ 樹種別更新量・更新予定量に関する数値の集計・整理

樹種	A. 当該年度更新予定量(対象期間:令和5年11月1日～令和6年10月31日) <sup>(※1)</sup>	B. 更新実績量		C. B-A	翌年度更新予定量(令和6年11月1日～令和7年10月31日) <sup>(※5)</sup>
		申告済更新実績量(令和5年11月1日～令和6年7月31日) <sup>(※2)</sup>	みなし更新実績量(令和6年8月1日～令和6年10月31日) <sup>(※3)</sup> <sup>(※4)</sup>		
スギ	0 ha	0 ha	0 ha	0 ha	2 ha

詳細は下記(3)、(4)参照

(※1) 「当該年度更新予定量」には、年度当初に認定取得者から提出された「主伐予定量申告書」に記載されている樹種別更新量を記載した。

(※2) 「申告済更新実績量」には、当該年度の2度の6カ月報告(「施業実績報告書」)の数値を記載した。

(※3) 「みなし更新実績量」とは、当該年度において2度目に提出された施業実績報告書に記載された、施業対象期間満了日の翌日から翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)の前日までに認定取得者が見込んでいる更新量のことをいう。上記表のみなし更新実績量の欄には、定時モニタリングの際に、認定取得者が当社のモニタリング調査担当者及びフォレストストック協会に提出した「みなし実績量申告書」に記載された数値を記載した。

(※4) 認定取得者は、翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)から2週間以内に、「施業実績報告書(みなし期間)」を当社及びフォレストストック協会に提出する。当社は、認定取得者から提出された「施業実績報告書(みなし期間)」に記載された申告実績量(以下、「確定申告実績量」という。)が事実と異なるおそれがあるか否かについて、定時モニタリング日の属する月の翌月末までに必要に応じ認定取得者からの聞き取り又は認定取得者に帳票類(森林経営計画、伐採届・伐採許可・造林届出及び販売関係帳票等の写し等)の提出を求める等の手段により調査確認を行い、確定申告実績量の記載内容が事実と異なるおそれがあると思料する場合には、定時モニタリング日の属する月の翌月末までにその旨をフォレストストック協会に報告する。(「みなし実績量確認手続」)

(※5) 「翌年度更新量」は、認定取得者が当社及びフォレストストック協会に対し、定時モニタリング日(翌年度の当初日)から2か月前までに提出した「主伐予定量申告書」に記載された樹種別更新量を記載した。

(2) (1)の数値につき、森林経営計画、伐採届・伐採許可、販売関係諸帳票などを勘案して、特段の意見があれば以下に記載する。

なし

(3) 当該年度(第2年度)のCO<sub>2</sub>吸収量の確定

①主伐等により控除される吸収量の内訳

樹種	A	B	C	D (B×C)	E (D×係数)	F (E×44/12)
	齢級	主伐面積 (ha)	面積あたりの 材積 (m <sup>3</sup> /ha)	主伐予定木の 蓄積 (m <sup>3</sup> )	年間炭素排出量 (t-C/年)	年間控除CO <sub>2</sub> 量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
スギ	14	1.0	385.90	385.9	93.8	343.94
スギ	15	1.0	400.30	400.3	97.3	356.79
合計		2.0	786.2	786.2	191.1	700

②更新等により加算される吸収量の内訳

更新はない。

③当該年度(第2年度)のCO<sub>2</sub>吸収量

	年間炭素吸収量(t-C/年)	年間CO <sub>2</sub> 吸収量(t-CO <sub>2</sub> /年)
当該年度(第2年度)年間吸収総量	630.6	2,310
控除	191.1	700
加算	0.0	0
当該年度(第2年度)年間実質吸収総量	439.5	1,610

(4) 次年度(第3年度)のCO<sub>2</sub>吸収量の算定

	年間炭素吸収量(t-C/年)	年間CO <sub>2</sub> 吸収量(t-CO <sub>2</sub> /年)
第2年度年間吸収総量	630.6	2,310
主伐による吸収量減算	1.4	4
更新による吸収量加算	0.0	0
第3年度年間吸収総量	629.3	2,306

① 伐採等により控除される吸収量の内訳

樹種	A	B	C	D (B×C)	E (D×係数)	F (E×44/12)
	齢級	主伐予定面積 (ha)	面積あたりの 材積 (m <sup>3</sup> /ha)	主伐予定木の 蓄積 (m <sup>3</sup> )	年間炭素排出量 (t-C/年)	年間控除CO <sub>2</sub> 量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
スギ	15	2	400.3	800.6	194.6	713.6
合計		2	400.3	800.6	194.6	713

② 更新等により加算される吸収量の内訳

樹種	A	B	C	D (B×C)	E (D×係数)	F (E×44/12)
	齢級	更新予定面積 (ha)	面積あたりの 年間成長量 (m <sup>3</sup> /ha/年)	年間成長量 (m <sup>3</sup> /年)	年間炭素吸収量 (t-C/年)	年間CO <sub>2</sub> 吸収量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
スギ	1.0	2.0	3.3	6.7	2.1	7.6
合計		2.0	3.3	6.7	2.1	7

③ 次年度(第3年度)のCO<sub>2</sub>吸収量

	年間炭素吸収量(t-C/年)	年間CO <sub>2</sub> 吸収量(t-CO <sub>2</sub> /年)
次年度(第3年度)年間吸収総量	629.3	2,306
控除	194.6	713
加算	2.1	7
次年度(第3年度)年間実質吸収総量	436.7	1,600



## 5 評価・算定数値向上のための指摘事項

【指摘事項】 森林施業は鳥川流域森林組合に業務委託されており責任ある管理がされているものの、環境への影響の軽減について認識し実行すること等の定性指標についてエコ計画社から具体的に要請したり実態確認したりした記録を残すことが望ましい。

【第2年度対応状況】 鳥川流域森林組合の2024年6月24日付「倉渕社有林における行動方針」を確認した。社有林内に生育する希少野生生物や植物について、定期的なモニタリングにより営巣や植生状況、病害虫や被害状況の確認を行う。モニタリングの結果、異常事態が確認された場合には当社と協議を行う。また、森林施業が生態系に与える影響を考慮し、施業方法、使用機械・材料等の変更を当社と協議する方針である。

【指摘事項】 再造林を通して若齢の林分が若干形成されているものの、林齢構成は7齢級および10齢級にピークがみられる。将来の資源形成のために若齢林を増やす努力を行うことが望ましい。

【第2年度対応状況】 鳥川流域森林組合の2024年6月24日付「倉渕社有林における行動方針」を確認した。高齢級の成熟した森林資源が豊富に存在している中で、皆伐再造林による森林の若返りを図っている。今後も皆伐再造林による適正な森林資源の循環が図れるように努める方針である。

【指摘事項】 近年は記録的な集中豪雨の頻度が高まっており、森林作業道を崩落させるなど災害の影響が想定されるため、自然攪乱後の巡視および維持管理など今後もより災害に強い森づくりを意識することが求められる。

【第2年度対応状況】 鳥川流域森林組合の2024年6月24日付「倉渕社有林における行動方針」を確認した。近年の記録的な集中豪雨による自然災害が多発している中で、施業予定のある森林においては甚大な自然災害が発生する可能性を認識し、災害に強い森づくりに努める。また、台風や集中豪雨のあった場合にモニタリング頻度を高め、被害状況の把握に努めることや必要に応じて適切な処置を施す方針である。

## 6 報告書作成にあたり確認等した資料及び書類等

- ・森林経営計画(3ページに記載の5計画)
- ・森林基本図

# 定時モニタリング結果報告 (第3年度)

認定取得者名：株式会社エコ計画  
対象森林所在地：群馬県高崎市倉渕町  
フォレストック認定日：令和4年11月1日  
定時モニタリング日：令和6年11月1日  
モニタリング報告書作成日：令和6年10月9日

1. 生物多様性の評価に関する特記事項  
(森林CO<sub>2</sub>吸収・生物多様性等調査報告書) 作成時以降の著しい変化)  
なし

2. 森林の管理・経営の評価に関する特記事項  
(森林CO<sub>2</sub>吸収・生物多様性等調査報告書) 作成時以降の著しい変化)  
なし

## 3. 森林吸収源の算定・確定

(1) 第1年度(令和4年11月1日～令和5年10月31日) 確定数量  
年間炭素吸収総量：629.6 t-C/年  
年間CO<sub>2</sub>吸収総量換算：2,307 t-CO<sub>2</sub>/年  
実年間CO<sub>2</sub>吸収量：2,310 t-CO<sub>2</sub>/年

(2) 第2年度(令和5年11月1日～令和6年10月31日) 確定数量  
年間炭素吸収総量：630.6 t-C/年  
年間CO<sub>2</sub>吸収総量換算：2,310 t-CO<sub>2</sub>/年  
実年間CO<sub>2</sub>吸収量：1,610 t-CO<sub>2</sub>/年

(3) 第3年度(令和6年11月1日～令和7年10月31日) 算定数量  
年間炭素吸収総量：629.3 t-C/年  
年間CO<sub>2</sub>吸収総量換算：2,306 t-CO<sub>2</sub>/年  
実年間CO<sub>2</sub>吸収量：1,600 t-CO<sub>2</sub>/年

証明者住所：〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台四丁目3番地  
新お茶の水ビルディング12階  
証明者所属機関：アマタ株式会社  
氏名：FSC®主任審査員 木村 直貴

